

協議：卒業後の自立と社会参加について、学校運営協議会として できること

教頭

【高等部作業学習について】

- ・昨年より作業学習のシステム改善を図った。具体的には、①統一された作業服の段階的導入、②所属する作業班が毎年変わるシステムから、数人がリーダーとして次年度も同じ作業班に残り、リーダー的立場となって活躍する場を作る、「リーダー制」の導入などが挙げられる。
- ・スキルだけの獲得に留まらず、礼儀や他者との協働など、働くことそのものの力を育てることを目的にしている。所属している作業班の職種だけでなく、卒業後、どの職種についても学校での学びを生かすことができるようにすることをコンセプトにしている。

【情報提供のお願い】

- ・製品を作るだけでなく、「消費者に届くまで」を学びにしている。そのため販路拡大をしたいが、よい場がないだろうか？
- ・学校で積み上げた力を現場で発揮できるように、産業現場等における実習が年に3回設定されている。実習の受け入れ先についてもよい情報があれば教えてほしい。
- ・校内で実習を行う生徒の作業は、教員が準備をしなくてはならない。その準備が大きな負担となる。企業からの受託作業が何パターンかあればとても助かる。

委員①

- ・教師の支援や環境の設定を見ることができた。感心することしきりだった。
- ・事業所の開拓や受注作業の斡旋等については、私の業務では情報を持っていない。
- ・教員が個別に開拓していくことは難しい。できることを提案するのであれば…
 - ① 実践の1つ1つを発信していくことをこれまで以上にしていけばよいのではないかな。
 - ② 企業や事業所が学校の様子を見学できるような場を設けてはどうか。

委員②

- ・何年かぶりに作業学習をじっくり観察することができた。生徒達が作業に取り組み経験を積み上げていることがよく分かった。多くの経験が強みになる。それが仕事につながることもあるはず。
- ・受注作業が減っていることは残念。地域関係で言えば、倉敷の繊維関係の業者から仕事をもらうことはできないのか。また、支援学校同士で調整はできないのか？
- ・スーパーでの出店は協力してもらえないだろうか。また、その際に販売場所のそばで出来上がるまでの工程を動画にして流すのもよいのではないかな。商品は出来上がったものなので、目にするのはほんの一部。実際に生徒が製品作りに関わっている姿を見る方が商品だけを見るよりもPRになる。
- ・商品のパッケージの中に、協力企業募集のためのPR文を入れて広報してみてもどうか